MEMBERS FEATURE

不織布成形品で国内「トップ」米国・アジア市場にも積極参入

不織布成形品の用途は幅広い。左下から時計回りに、自動車座席シートのウレタンパッドの補強材、オフィス向けデスクチェアのカバー、事務書類のキャリアケース、プラグインハイブリッド車用燃料タンク断熱カバー

大塚産業マテリアルは繊維を織らずにプレスしてシート状にする不織布の成形技術に強い。主力製品は自動車の座席シートに使用されるウレタンパッド補強材。国内外の主要自動車メーカーに納めている。海外市場の拡大を狙いつつ、ヘルスケアやアウトドア分野にも参入している。（編集部）

製造現場で使われているロボット超音波トリム機。人の手では切りにくいような複雑な形でも簡単にトリミングできる

大塚産業マテリアル（滋賀県長浜市）は主に自動車関連の不織布成形加工品を製造する。主力製品は「モールド副資材」の一つで自動車座席シート用のウレタンパッド補強材。シートのウレタンパッド（クッション）とフレームの間に入れることでウレタンパットとフレームの擦れ音防止やウレタンパットの補強に用立てる。

「モールド副資材は国内の主要自動車メーカーで採用されている。非常にニッチな分野だが、国内シェアは7割でトップ」と大塚誠厳（もとよし）社長は語る。

そのほか、自動車のヘッドレストカバーや燃料タンクの断熱材などの安全部品も手掛ける。国内では2022年に本社工場とは別に長浜市内で新工場の稼働を開始。これによりモールド副資材の生産能力は約2倍に引き上がった。

02年に中国に現地法人を設立して以来、海外展開も積極的に進めている。ベトナム、米国でも事業を展開しており、22年には新たに米ミシガン州にも現地法人を設立。北米市場への本格進出を果たした。ベトナムの工場で作った製品を、北米に送っている。

「世界の自動車生産台数は伸びており、海外には日本の数倍の市場がある。国内の需要減に備え、アジアや北米事業に力を入れたい」（大塚社長）。

自動車領域以外にも多角展開

自動車関連の売り上げが現在9割を占める同社だが、近年は自動車領域以外にも不織布成形品の多角展開を進めている。例えば、大手電機メーカーの小型ロボットのフェルト成形のパッケージに同社の不織布成形品が採用されている。また、鉄道車両のシートクッションや医薬品のケース、キャンプ用品、新幹線の線路のつなぎ目に組み込む緩衝材など多様な業界の企業と協業しながら不織布成形の新製品を開発している。

大塚産業マテリアルは1706年に蚊帳の生産から始め、大塚社長は10代目。戦後、蚊帳の市場衰退に伴い住宅関連事業に進出。蚊帳の原料を使って壁紙を生産するようになった。琵琶湖に生える葦（あし）の柄を織り込んだ壁紙を欧米で販売したところ、「材料がなくなるほど人気製品となった」（大塚社長）。

1957年に大塚社長の祖父が米国を視察し、自動車産業に注目した。当時、自動車の座席シートには、ばねが使用されていて、そのばね受け材として、土のうなどに使うジュート（麻の一種）が用いられていた。ジュートは100％輸入材で、価格や供給が不安定だった。

そこで、代替品として大手化学メーカーと共同でポリエチレンフラットヤーン（平らな糸）の織物を開発。その織物がトヨタ自動車の指定商品として採用され、座席シートの補強材として使われるようになった。その後、織って染めて縫製する蚊帳の製造技術を活用し、自動車内装品の天井やシートの生産に進出し、現在に至っている。

大塚社長は大学を卒業後、大手シンクタンクでシステムエンジニアとして働いていたが、5年勤めた頃に、父親からの打診で大塚産業マテリアルへの入社を決意した。「もともと後を継ぐ気はなかったが、米国とのビジネスに魅力を感じた」と大塚社長は振り返る。

中小企業大学校で10カ月間経営の勉強をして入社し、中国法人の運営などを担当。2018年に社長に就いた。

この数年は「企業の成長には従業員のエンゲージメントが向上し続ける環境づくりが大切」と考え、ウェルビーイング（心身の健康や幸福）を重視した経営に注力している。

部署横断の「幸せ向上委員会」を結成し、社員同士の交流を深めるイベントを実行する。また「もとよししゃちょーとジュースミーティング」と題し、定期的に従業員から大塚社長が直接会社への要望を聞く場も設けた。

改善提案制度も実施。社員の声を集め、働きやすい職場環境づくりに生かしている。

「既存事業は海外展開によって深掘りしながら、強みとする不織布成形技術を磨き、新規事業を創出する。31年には高収益グローバル繊維加工メーカーを目指したい」と今後について、大塚社長は意気込みを語る。

不織布成形品には金型が必要で、その金型はCAD（コンピューターによる設計）を用いて作る

滋賀県 長浜市

大塚産業マテリアル

会社概要●大塚産業マテリアル株式会社：1987年設立。自動車シート部品ほか不織布成形加工品などの開発・製造　従業員数：142人（単体）　売上高：75億円（単体）　本社：滋賀県長浜市八幡中山町1　TEL：0749-74-8888
Web https://www.otksm.co.jp/

全員経営者へのメッセージ!!

不織布成形品を一緒に作りましょう
当社には長年培ってきた不織布成形の技術があります。コラボレーションして新製品を開発しませんか？

トップの思い

大塚産業マテリアル 代表取締役社長
大塚 誠厳 氏

おおつか・もとよし　1974年東京都台東区生まれ。大学を卒業後、日本総合研究所でエンジニアとして働く。2003年に大塚産業マテリアルに入社し、18年社長に就任

社員の人生にとって必要な会社になる

創業から300年以上、多くの縁に支えられて事業を続けてくることができました。武術家の柳生宗矩（やぎゅう・むねのり）の言葉に「小才は、縁に出合って縁に気づかず、中才は、縁に気づいて縁を生かさず、大才は、袖すり合った縁をも生かす」とあります。私も縁に気づき、生かせる経営者でありたいと思っています。

社員との出会いも大事な縁です。一人ひとりの個性と多様な働き方を尊重し、社員の人生にとって必要な会社になっていきたい。社員が幸せに生き生きと働けるからこそ、お客様も幸せにできる、それがまた社員のやる気を生む。そういった好循環を生み出していきたいと考えています。

「自分さえよければいい」という考え方では、もはや経営は成り立ちません。国内外で働く社員たちもお客様も、そして地球環境にとっても、関わるみんなが幸せである経営をしていきたいと思っています。（談）

（写真：大塚産業マテリアル）